

26年度(特別演武) 神道夢想流杖道

神道夢想流杖道の概要

杖道の歴史は古く、今から四百年前に夢想権之助勝義が編み出した「神道夢想流杖術」を基としております。 夢想権之助は、当初、新当流の櫻井大隅の守吉勝の下で修業し数多く試合を行ない一度も敗れたことがなかったが、宮本武蔵との試合で武蔵が得意とする極意の十字留にかかり進むも引くもできず敗れたそうである。その後、夢想権之助は艱難辛苦の修行に専念し、筑前宝満山に祈願参籠し満願の夜、夢の中に神童が現れ「丸木をもって水月を知れ」との御神託を伝えられ工夫をかさねつについては、宮本武蔵の十字留を破る技を編み出したと言われております。 この技を「神道夢想杖術」といい福岡の黒田藩に伝わってきました。

神道夢想流杖術の特徴は、技術面における「突けば槍 払えば薙刀 持たば太刀」といわれるように槍、薙刀、太刀の要素を兼ね備えた千変万化する多種多様な技と精神面における「疵付けず 人をこらして 戒める」といわれる人を殺めぬ不殺の理念にあります。

明治維新後は、白石範次郎が道統を守って参りました。 昭和の初め、講道館の嘉納治五郎、警視庁宮田光雄警視総監の要請があり白石の高弟の一人清水隆次が東京にて当流を普及のため上京した。 地元では、高山喜六が道統を守り他界後乙藤市蔵が継承した。

昭和31年「杖道」は、全日本剣道連盟に加盟し、広く普及するに至っております。 現在、全日本剣道連盟、東京都剣道連盟杖道部会の指導者のほとんどは、「神道夢想流杖術」白石範次郎より道統を継承した清水、乙藤の直弟子もしくは孫弟子である。

【演武者】

打太刀 杖道教士八段 釣賀敏郎 (元警視庁逮捕術主席師範)
仕太刀 杖道教士八段 藤崎興朗 (元警視庁逮捕術師範)

*両先生とも全日本杖道大会等に参加し数多の優勝を飾る。

現在もなお、日本国内のみでなく海外においても演武、指導をされるなどご活躍されている。

【形】

●杖 術

- 表……………12本
- 中段……………12本
- 影……………12本
- 五月雨……………6本
- 仕合口(奥)……………12本
- 極意……………5本

●剣 術

- 大太刀……………8本
- 小太刀……………4本

◎本日の演武は、古流64本の中から7本を行なう。

*杖術のみでなく、神道流剣術を含み、一達流捕縄術、一角流十手術、一心流鎖鎌術内田流短杖術、中和流短剣術が併伝されている。